



日本歯科大学 (新潟病院
医科病院)

Vol. 34
2017.8.1

アイヴィ通信

～皆様の口腔と全身の健康を目指して～

歯科ドッグをご存知でしょうか

口腔外科 講師
看護科長

高田 正典



日本歯科大学医科病院では平成27年4月1日より「日帰り人間ドッグ」を実施しております。その検査項目に歯科(一般診察、レントゲン、味覚検査、唾液量検査、口臭検査)が含まれ、基本検査料金35,000円(税別)となっています。詳細は日本歯科大学医科病院ホームページをご覧ください。

歯科ドッグは、口の中の病気を早期発見するだけでなく、いつまでもご自分の歯で快適に過ごす事ができるよう手助けします。これからの歯科は、定期的に受診、早期発見や今後のリスクを確認することで快適な生活を維持することを目的に皆様のサポートをさせていただきます。

なお、下記に該当する方は特に受けていただきたいと思います。

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| ● しばらく歯科医院を受診または治療されていない | ● 骨粗しょう症で治療している |
| ● 特に糖尿病・高血圧等の生活習慣病を有している | ● 歯科治療に恐怖を感じている |
| ● 一生涯自分の歯で元気に過ごしたい | ● 口腔乾燥が気になる |
| ● アンチエイジングを目指している | ● 口腔がんが気になる |
| ● 全身疾患(有病者)を有している | ● 口臭が気になる |

口の中の病気(虫歯、歯周病、粘膜疾患等)は、全身疾患同様に自覚症状がなくても発症や進行している可能性があるのです。また、全身疾患の一症状として口の中に初めに症状が出ることもあり、歯科医師によって全身疾患を見つける事もあります。したがって、歯科の検査では一般診察により、虫歯、歯周炎、粘膜疾患など口の中の診察。レントゲン検査では、顎全体の撮影を行い、歯周病の進行程度、顎の骨内の病気、顎関節や副鼻腔、他の炎症や病気の有無の診査。味覚検査では味覚を司る神経の異常などの診査。唾液量検査は唾液の機能異常や自己免疫疾患等の可能性についての診査。口臭検査は本来保険診療では実施できません。口臭は、虫歯、歯周炎、粘膜疾患だけでなく、全身疾患による影響でも異常をきたします。以上述べたように、全身の健康と口の中の健康のためにも日帰り人間ドッグを是非お勧めいたします。



マンモグラフィ検査の紹介

— 乳腺外来を開設しました —

● 外科学講座教授
医科病院副院長

大竹 雅広

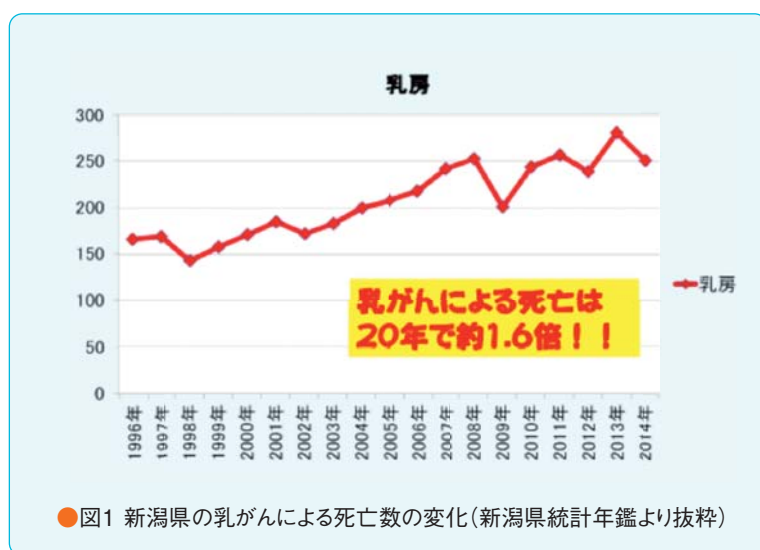


日本人の死亡原因の第一位が『がん』となつてからかなりの年数が経ちました。その中でも、近年最も増えているがんのひとつに『乳がん』があり、新潟県でも乳癌による死亡数は増加しています(図1)。今や「女性の12人に一人が乳がん罹患する」とも言われていますが、乳がん罹患する人は40歳代後半に、乳がんて亡くなる方は50歳代前半が最も多く、他のがんに比べると患者さんが若いことが特徴です。

乳がんの早期発見に大きな役割を期待されているのがマンモグラフィ検査です。欧米ではマンモグラフィ検査を検診に用いることによって乳癌による死亡が減少しました。日本でも平成16年より40歳以上の女性に対してマンモグラフィ検診を導入しており、新潟県では平成17年度から実施されています。検診で発見される乳癌は自分で見つけた乳がん比べてより早い段階で見つかることが多く、早い段階で治療を開始すれば乳房を全部取らなくても、完全に治すことができる場合があります。

このたび、大学の御厚意により待望のマンモグラフィ撮影装置が医科病院に入り、4月24日より稼働しています(図2)。今回導入したマンモグラフィ機器は最新鋭のトモシンセンシス、いわゆる3D撮影ができる機能を備えており、新潟県内にはまだ数台しかありません。この撮影装置によって、これまで診断が難しいとされてきた50歳未満の方や乳腺密度の濃い乳房についても、より正確な診断ができることが期待されています。

通常の住民検診では、50歳以上は1方向のみ、50歳未満は2方向の撮影を行っています。しかし、当院でのマンモグラフィ検査では、左右の乳房をそれぞれ2方向ずつ、合計4回の撮影を行い、さらに3D撮影のためにもう1回ずつ、合計6回の撮影を基本としています。従来機種に比べて撮影回数が増える分だけ、撮影には少し時間がかかりますが、機械の性能



が向上したため、被ばく量は従来機種のそれとほとんど変わりません。ただ、放射線被ばくを少なくするためと、鮮明な写真を撮るためには撮影時の乳房圧迫が必要です。人によってはその時に痛みを感じられる方もいらっしゃいます(私自身も経験しました)が、御理解と御協力をいただけたらと思います。

医科病院のマンモグラフィ検査はすべて予約制です。撮影は、原則として女性技師が担当します。また、患者さんとゆっくりお話ができるようにとの思いから、7月以後の毎週水曜日午後に乳腺外来を開設しました(予約制)。外来ではマンモグラフィ検査のほか、超音波検査やCT検査、MRI検査なども必要に応じておこないます。したがって、住民検診やドック等で乳房の異常を指摘された場合の精密検査にも対応できます。興味のある方や診察を希望される方は外科外来までお問い合わせください。

マンモグラフィ検査を有効に活用していただき、乳がんを早期にみつけれられるお手伝いができればと思っています。



● 図2 マンモグラフィ撮影装置(左：全景、右：撮影台)



いつまでも口からおいしく食べるために

●日本歯科大学新潟病院
訪問歯科口腔ケア科

戸原 雄



皆さんは食べること、飲むことが好きですか？家族や友人とおいしいご飯を口から食べることや、仕事の後に冷たいビールを飲むことなど、口から食べること、飲むことは人生の大きな楽しみのうちの一つです。

私たちは、食べ物を食べる機能（摂食嚥下機能と言います）の低下によってお食事に不安のある方や、現在、経管栄養で口から食べたり飲んだりしていないけれど、少しでも口から食べたいとご希望の方などを対象に、摂食嚥下機能の評価と訓練指導・摂食指導を行っています。

現在日本は平均寿命の延伸にともなって世界有数の超高齢社会を迎えており、お元気な高齢者の方を見かけることが増えてきました。そして歯を多く持つ高齢者の数も増えてきています。その一方、高齢化により、脳卒中などの脳血管障害やパーキンソン症候群に代表される神経筋疾患、認知症などの寝たきりの患者さんや口や首のがんなど様々な疾患によって食べる機能の障害（摂食嚥下障害と言います）を持つ患者さんが増えてきており、摂食嚥下障害の問題を最近テレビや新聞などでも目にするようになってきました。

摂食嚥下障害とは、口や喉の様々な筋肉の動きが障害されることで、食べ物や飲み物が肺に入ってしまう（誤嚥と言います）障害です。摂食嚥下障害の患者さんで最も問題とされるものが誤嚥性肺炎です。現在日本人の死因の第3位は肺炎であり、特に80歳を超える老人の肺炎の多くは誤嚥性肺炎と言われています。

摂食嚥下障害の原因は前述のように様々ですが、摂食嚥下障害の問題は大きく3つ挙げられます。

1. 食べ物や水分を誤嚥してしまうことで誤嚥性肺炎や窒息の危険を生じる
2. 食事がうまく取れないため低栄養や脱水を起こしてしまう
3. 食事の際にむせが生じて食べることが苦しく食事が楽しくない

など、生活を営む上でさまざまな障害を引き起こします。

また、高齢者が肺炎で入院をすると約7割の患者さんは体力が大幅に低下すること、さらに低栄養は摂食嚥下障害を発症させることや、歩くことが困難になる、物をつかむ力が低下するなどの全身的な機能の低下を引き起こすことがわかってきており、摂食嚥下障害と全身の健康は密接な関係にあることがわかってきています。

摂食嚥下障害を持つ患者さんに対するアプローチで重要なことは、摂食嚥下機能に適切な食事を摂取してもらうことです。つまり、喉の機能が低下している患者さんには、誤嚥性肺炎を

発症したり、重篤な低栄養におちいる前に早期に食べやすい食事をとっていただくことで肺炎を予防し、栄養状態を維持することが最も重要と考えられています。私たちが以前行った調査では在宅で生活している高齢の摂食嚥下障害患者に対する実態調査では約7割の患者さんが摂食嚥下機能と食べているものの内容が一致していないという結果でした(図1)。摂食嚥下機能と食べているものの内容が不一致である患者さんのうち、半数以上の患者さんに関しては嚥下レベルより高い食事形態を摂取している状態つまり、誤嚥性肺炎や窒息の危険が高い状態であることが明らかになっています。

また別の調査では現在口から食べ物をとっていない胃ろうの患者さんや経鼻経管の患者さんの多くに、口から少量食べ物をとることができる方がいることも明らかになっています(図2)。

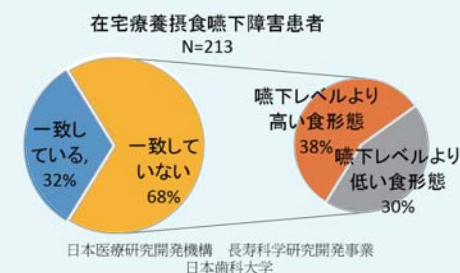
これら2つの調査からわかることは、口から安全においしく食事をとるために適切な評価がされていないために誤嚥性肺炎の危険を伴う患者さんが多くいる一方、本来少量であれば食べることができるにも関わらず食べる楽しみを味わうことができていない患者さんも多くいるということです。

摂食嚥下障害は早期に発見し適切な評価とリハビリテーションを行うことで改善することが見込める障害です。

摂食嚥下障害の方によく見られる症状(図3)はこれらに見られるように患者さんによって様々です。また、患者さん自身の自覚症状が乏しく、ご家族の方のほうが早く気付く場合も多々見られます。摂食嚥下障害の患者さんの多くは寝たきりなどで外来への通院が困難な場合が多くみられますが、我々がご自宅や施設への訪問を行うことも可能です。これらの症状のうち、ご自身やご家族の方に該当する症状が見られ、もし気になるようであれば、スタッフに一度ご連絡ください。

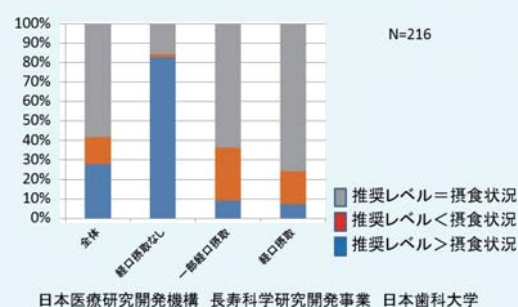
● 図1

地域在住高齢者の摂食嚥下障害に関する実態調査
摂食状況、摂取食形態の実態調査



● 図2

地域在住高齢者の摂食嚥下障害に関する実態調査
摂食状況、摂取食形態の実態調査



● 図3 摂食嚥下障害のサイン

- ☒ 食べるのが遅くなった
- ☒ やせてきた
- ☒ 食事中にむせる
- ☒ 食べこぼす
- ☒ 口の中に食べ物が残る
- ☒ のどに食べ物が残る
- ☒ 食べにくいものがある
- ☒ 飲み込みにくい
- ☒ 肺炎や発熱を繰り返している
- ☒ 痰がでる、痰が増えた
- ☒ のどがゴロゴロなる
- ☒ 夜眠っているときにせき込む

新潟
病院

臨床研修歯科医師の コラレ



第29回 タバコと歯周病



総合診療科

●小堀 雄二 ●土持 智志 ●瀧澤 洋明

歯 周病は、虫歯と並ぶ歯科の2大疾患のひとつで、歯茎(歯肉)の腫れや痛み、口臭、歯を支える骨(歯槽骨)の破壊が起こる慢性の炎症性疾患です。ひどくなると最終的には歯が抜けてしまうため、食事や会話などの日常生活に大きな支障をきたします。

こ の歯周病に大きく影響するのがタバコです。タバコのリスクとして、最も知られているのは肺がんです。それだけではなく歯やお口に及ぼす悪影響は無視できません。

タバコの煙には数千もの化学物質が含まれていて、そのうちニコチン、発癌性物質などの有害物質は200~300とも言われています。ニコチンは一種の神経毒で、血管を縮めることにより、体が酸欠、栄養不足になり歯周病が治りづらくなります。また、出血も見られないので、自分自身で歯周病にかかっていることに気づきにくいので早期に発見することが難しくなります。

治療を行なっても、治りが遅くなるのに加えニコチンは免疫の機能も低下させるので他にも病気にかかるリスクを高めてしまいます。

近年、歯周病が糖尿病や誤嚥性肺炎、早産などの原因となることが明らかになり、歯周病が単に口の中だけのものではなく全身の健康を脅かす病気になってきました。



早産・低体重児



糖尿病



肺炎 など

歯 周病を治すためには、定期的な検査が必要となってきます。ですが歯科医師だけでは完治させることができません。患者さん自身もお口の中を綺麗にするようにしていただくことも大切です。なので、歯周病は歯科医師と患者さん二人三脚で治していくものです。

編集
後記

■いよいよ、夏・本番に突入ですね。みなさんにおかれましては、夏の暑さ対策は万全でしょうか。今年も、夏のさまざまなイベントやドラマがあることに期待します。夏本番は水分補給をしっかりと行って熱中症の対策や、海水浴の際の過度の日焼けにも気をつけて、楽しい夏を迎えていきましょう。(靖)



日本歯科大学新潟病院・医科病院

アイヴィ通信



発行日／平成29年8月1日 発行人／山口 晃 大越 章吾
〒951-8580 新潟県新潟市中央区浜浦町1-8
TEL 025-267-1500(代) FAX 025-267-1546(支援室直通)